

第 3 期横浜市スポーツ推進計画に向けた審議スケジュール

	時期（予定）	内容
市	【第 4 回会議】 令和 3 年 6 月 24 日	審議内容：「次期横浜市スポーツ推進計画に向けて」 ・横浜市スポーツ推進計画の振り返りについて （報告事項）令和 3 年度予算
国	7 月頃	スポーツ推進会議（関係省庁に協力依頼）
	9 月頃	次期計画における主要課題①
	10 月頃	次期計画における主要課題②
	10 月頃	次期計画における主要課題③
	11 月頃	次期計画の構造案（たたき台）
	11 月 29 日	中間報告素案
市	【第 5 回会議】 12 月 2 日（木）	審議内容：「第 3 期横浜市スポーツ推進計画（素案）について」
	12 月 13 日	第 4 回市会 常任委員会報告（素案）
	12 月頃	「第 3 期横浜市スポーツ推進計画（素案）」確定
国	12 月頃	スポーツ推進会議（中間報告素案 関係省庁に協議、意見交換）
		中間報告案（審議・決定）
	令和 4 年 1 月頃	中間報告のパブリックコメント（1 か月程度） 中間報告に対するパプコメの結果 答申案
市	1 月 17 日～2 月 15 日	第 3 期横浜市スポーツ推進計画のパブリックコメント（素案）
市	【第 6 回会議】 3 月 11 日（金）	審議内容： 「横浜文化体育館再整備事業 メインアリーナ名称について」 「第 3 期横浜市スポーツ推進計画（原案）について」
国	3 月頃	答申案（審議・決定）
	3 月頃	スポーツ推進会議（計画案の協議）
	3 月末	計画の大臣決定、官報公示
市	3 月 15 日（火）	第 1 回市会 常任委員会報告（原案）
	3 月末	「第 3 期横浜市スポーツ推進計画（原案）」確定
	【第 7 回会議】 令和 4 年 5 月頃	審議内容：「第 3 期横浜市スポーツ推進計画（計画案）について」 「横浜市におけるスポーツ振興について（答申案）」 ・答申
	5 月末	「第 3 期横浜市スポーツ推進計画」策定
	6 月	第 2 回市会 常任委員会報告
	令和 4 年 8 月	〈第 25 期横浜市スポーツ推進審議会委員任期（令和 4 年 8 月 3 日まで）満了〉

第 3 期「横浜市スポーツ推進計画」の策定について

第 3 期「横浜市スポーツ推進計画」素案について、令和 3 年 12 月 2 日に開催された第 5 回審議会での議論及び市民意見募集（パブリックコメント）にて、いただいた御意見等を踏まえて原案を作成しました。

1 市民意見募集（パブリックコメント）の概要について

（1）意見募集期間

令和 4 年 1 月 17 日（月）～ 2 月 15 日（火）

（2）募集方法等

ア 素案の配布・閲覧

- ・各区役所広報相談係、市民情報センター、各区スポーツセンター等での概要版の配布。また、詳細版を配架・閲覧。

イ 関係団体等への周知依頼

- ・横浜市スポーツ協会加盟の競技団体等（74 団体）
（種目ごとの競技団体（52 団体）、各区スポーツ協会（18 団体）、横浜市中学校体育連盟、横浜市立小学校体育研究会等）
- ・大学・都市パートナーシップ協議会参加大学（29 校）

ウ ホームページへの掲載及び SNS、メーリングリスト等による周知

エ 広報よこはま（令和 4 年 1 月号）による周知

2 実施結果について

（1）意見数

130 人・3 団体、187 件（前回 77 人・2 団体、249 件）

（2）受付方法別の内訳

受付方法	人数、団体数	割合
電子申請システム	110	82.7%
郵送	7	5.3%
電子メール	1	0.8%
ファクシミリ	0	0%
その他	15	11.3%
合計	133	100%

裏面あり

(3) 御意見への対応状況

対応	件数	割合
御意見の趣旨を踏まえ、素案を修正したもの	24件	12.8%
趣旨が既に素案に（一部）含まれていると考えられるもの	21件	11.2%
素案に賛同いただいたもの	24件	12.8%
参考とさせていただくもの	113件	60.4%
その他の御意見・質問等	5件	2.7%
合 計	187件	100%

別紙「御意見の対応状況について（抜粋）」を参照

3 市民意見募集等により追加した主な点

第2章 2 横浜市のスポーツ における現状と課題	学校部活動の状況（本文 P. 20） 令和3年度 横浜市民スポーツ意識調査の 結果（本文 P. 29） 令和3年度 全国体力・運動能力、運動習慣 等調査の結果（本文 P. 30）
第3章 1 目標	誰もがスポーツを楽しみ、喜びを感じながら 取り組めるようにするため、「つくる／はぐ くむ」の視点（本文 P. 35）
指標と数値目標	スポーツの根源的な価値（喜び、楽しみ）の 思想が反映されると良い、とのご意見によ り、指標として、「スポーツが好きな人の割 合」（本文 P. 36）
取組10 障害のある子どもがス ポーツを楽しむ機会・ 場の充実	一般学級に在籍する体育の授業参加を希望 する障害のある子どもの体育見学ゼロを目 指し、市立学校における取組を推進すること （本文 P. 41）
取組13 地域スポーツ指導者の 養成・活躍支援	スポーツ指導に関する基礎的な知識や技能 を身につける機会とするとともに、体罰や暴 力、その他不適切指導の根絶を目指すこと （本文 P. 41）

取組14 スポーツボランティア の育成・活躍支援	イベントを支えるチームの一員であるスポーツボランティアに対し、日ごろの活動に対する感謝を伝える取組を進めること (本文 P. 42)
取組17 多様な主体が利用しやすいスポーツの場の充実	多様な主体がスポーツ活動に参画し、地域とのつながりを築くことで、地域コミュニティの活性化を図ること (本文 P. 42)
取組20 大規模スポーツイベントの誘致・開催支援	主催者と連携し、安全・安心な大会運営と、より快適に観戦できるよう取り組むこと (本文 P. 43)

4 今後のスケジュール（予定）

令和4年5月 横浜市スポーツ推進審議会
6月 常任委員会への報告
公表

【資料2-2_別紙】御意見への対応状況について（抜粋）

1 御意見の趣旨を踏まえ、素案を修正したもの（抜粋）

No.	該当箇所	市民意見募集での御意見の概要	修正・追加内容
1	第3章 「スポーツ都市横浜」の実現に向けて 指標と数値目標（原案 P.36）	スポーツの根源的な価値（喜び、楽しみ）の思想が反映されたような表現、あるいは目標が追加されていた方が良い。	スポーツの根源的な価値（喜び、楽しみ）の思想が反映された目標として、「スポーツが好きな人の割合」を追加。
2	第3章 「スポーツ都市横浜」の実現に向けて 取組10 障害のある子どもがスポーツを楽しむ機会・場の充実 （原案 P.41）	スポーツ庁は、「第3期スポーツ基本計画中間報告」（R3.12.20）」において、すべての子どもたちの可能性を引き出す個別最適な学びと協働的な学びを実現する体育の授業改善を提唱し、「一般学級に在籍する体育の授業の参加を希望する障害のある子どもの体育見学ゼロ」を目指している。	地域療育センターや特別支援学校と連携し、障害のある子どもが乳幼児期から学齢期まで切れ目なくスポーツを楽しむ機会を提供します。また、 <u>一般学級に在籍する体育の授業参加を希望する障害のある子どもの体育見学ゼロを目指し、市立学校における取組を推進していきます。</u> トップアスリートやトップスポーツチームとの交流やイベント等を通じて、障害のある子どもが幼児期から運動に親しめる環境を整備します。
3	第3章 「スポーツ都市横浜」の実現に向けて 取組13 地域スポーツ指導者の養成・活躍支援（原案 P.41）	安心・安全という部分は医療だけではなく、警察、消防、救急といったことや、パワハラといったことも必要かもしれない。	地域のスポーツ活動で活躍できる人材を養成する「横浜市スポーツ・レクリエーション人材養成講座」を実施し、スポーツ指導に関する基礎的な知識や技能を身につける機会とするとともに、 <u>体罰や暴力、その他不適切指導の根絶を目指します。</u> また、同講座の修了者や現場で活躍している地域のスポーツ指導者に対しても、地域のニーズに応じた指導内容や方法などの研修を充実するとともに、ニーズに応じた指導者を紹介する人材活用システムの利用を促進します。 障害者スポーツ指導員養成研修会を開催するとともに、市スポーツ協会や障がい者スポーツ指導者協議会（通称：バセル）等と連携し、インクルーシブスポーツの体験会などを行います。
4	第3章 「スポーツ都市横浜」の実現に向けて 取組14 スポーツボランティアの育成・活躍支援（原案 P.42）	「スポーツを支える担い手」をもう少し大事にするような計画を積極的に入れるとよい。国際大会や国内における大イベントで、「支えているのは私たち市民だ」という意識にさせるのが大事。	横浜市スポーツボランティアセンターを通じて、市内の規模スポーツイベント等のボランティアの募集・登録や研修等の人材育成、啓発イベント等を開催するとともに、 <u>トップスポーツチームと連携して継続的にボランティア活動ができる場や機会を創出します。</u> また、 <u>イベントを支えるチームの一員であるスポーツボランティアに対し、日ごろの活動に対する感謝を伝える取組を進めます。</u>
5	第3章 「スポーツ都市横浜」の実現に向けて 取組17 多様な主体が利用しやすいスポーツの場の充実 （原案 P.42）	・スポーツが持っているコミュニティ力をもう少し上手に生かすという方向で書いていただけるとよい。 ・外国人が非常に多いことが横浜市の特徴であり、スポーツを通じたかかわり、スポーツをする機会を作っていくことの重要性が指摘されているので、そういった方向について、基本的な考え方の中に入れてはどうか。	乳幼児のいる親や、障害者、外国人など、多様な主体が有する特徴の制約を受けずに利用しやすいスポーツの場を充実するため、託児サービスの活用やバリアフリー、ユニバーサルデザインの推進、多言語・やさしい日本語への対応など、受け取りやすい情報提供の工夫を検討・強化します。また、 <u>多様な主体がスポーツ活動に参画し、地域とのつながりを築くことで、地域コミュニティの活性化を図ります。</u>
6	第3章 「スポーツ都市横浜」の実現に向けて 取組20 大規模スポーツイベントの誘致・開催支援 （原案 P.43）	観戦について、「安全・安心に観られる、より快適に観られる」というのも入れてみてはどうか。	国際大会や全国大会などの大規模スポーツイベントを誘致し、市民のスポーツ観戦やボランティア活動の機会を増やします。イベントの開催を通じ、市民への「スポーツ都市横浜」のブランディングと、世界や全国に向けて横浜の魅力を発信し、経済の活性化などにもつなげます。 また、 <u>主催者と連携し、安全・安心な大会運営と、より快適に観戦できるよう取り組みます。</u>

2 趣旨が既に素案に（一部）含まれていると考えられるもの（抜粋）

No.	該当箇所	市民意見募集での御意見の概要
1	第2章 スポーツを取り巻く現状と課題 2 横浜市のスポーツにおける現状と課題（原案 P.18）	横浜市のスポーツ環境について、全国との比較もあり、わかりやすく体系的にまとめられていました。素晴らしい素案だと思います。 子どもの体力向上について、「昭和60年頃の体力」という定義がわかりづらいこと、また、生活様式・環境が変化する中で、「昭和60年頃の体力」を目標とするのは難しい状況かと思えます。成果を分析するにあたって体力テストの点数と比較するしかないため、今回の改訂を契機に見直しをされるとよいと思います。
2	第3章 「スポーツ都市横浜」の実現に向けて 目標2 スポーツを通じた共生社会の実現（原案 P.35）	「多様な人と関わり、運動・スポーツを楽しみたいと思う子どもの割合」は、大人も必要なのではないか。
3	第3章 「スポーツ都市横浜」の実現に向けて 取組3 働く世代と子育て世代の親と子が楽しむスポーツの充実（原案 P.39）	女性・働き世代のスポーツ実施率の向上については、オンライン上のイベント・リアルイベント両方の視点があると良いと思えます。
4	第3章 「スポーツ都市横浜」の実現に向けて 取組17 多様な主体が利用しやすいスポーツの場の充実（原案 P.42）	障害を理由として、スポーツ施設の拒否、制限を0に、というようなことも、是非入れていただけたらよい。

3 素案に賛同いただいたもの（抜粋）

No.	該当箇所	市民意見募集での御意見の概要
1	計画全般	コロナ禍にあっても、オリンピック・パラリンピックが開催され、多くの人が勇気と感動をもらったと思います。スポーツの力を信じ、ぜひ、より良い計画としてください。
2	第3章 「スポーツ都市横浜」の実現に向けて 目標2 スポーツを通じた共生社会の実現（原案 P.35）	目標2「スポーツを通じた共生社会の実現」が大切だと思い、共感しました。子どもの頃から、スポーツを通して自然と様々な人と関わることで、多様性に対して寛容で、インクルーシブな人格形成につながると思います。多くの人が障壁なく参加でき、楽しめるスポーツ施策に期待しています。
3	第3章 「スポーツ都市横浜」の実現に向けて 取組18 トップスポーツチーム等と連携したスポーツの魅力発信（原案 P.42）	多くのプロスポーツチームが横浜をホームにしています。チームを応援することでスポーツを通じ、横浜そのものに愛着を感じ、人が集うことにつながるような取組をぜひ進めてください。

4 参考とさせていただくもの（抜粋）

No.	該当箇所	市民意見募集での御意見の概要
1	第3章 「スポーツ都市横浜」の実現に向けて 目標3 スポーツによる賑わいづくり	横浜はスポーツが盛んであるかどうかの目標値が面白いと思いました。是非、目標を超えられるよう取組を進めてください。スポーツアニメや漫画とコラボすると、スポーツに興味がない層も取り込めて、数値があがると思います。
2	第3章 「スポーツ都市横浜」の実現に向けて 取組6 スポーツに取り組むための身近な場の確保と充実	市民のスポーツ推進のために、5年以内に、天然芝または人工芝の球技場（約105×68m）を10面以上、市内に増設することを切望します。